

中毒学Ⅱ

Toxicology Ⅱ

単位数：5単位

- 竹下 治男 教授：法医学
山崎 雅之 准教授：人間科学部(医学部兼務)
藤原 純子 学内講師：法医学
木村かおり 学内講師：法医学
山田 法顕 准教授：救急医学

1. 科目の教育方針

中毒学Ⅱの講義・演習では、中毒学の一般原理の解説・応用にはじまり、薬毒物、農薬、大気汚染物質等の環境に影響を及ぼす毒物をはじめ、化学兵器、生物兵器、動物毒、植物毒、食中毒、細菌毒および産業衛生学関連等の広範囲にわたる中毒について実践的に学ぶ。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 中毒をめぐる問題を法医学および救急医学の立場から理解・応用し、中毒をめぐる社会的問題を理解し対処する。
- 2) 精神医学領域における薬物中毒(薬物依存)の病態について理解し、実際の事例に対処できる。
- 3) 産業衛生分野におけるリスクマネジメント手法を理解し、産業中毒に対処できる。
- 4) 救急医学的急性中毒の診断と治療について理解し、実践できる。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 中毒の一般的知識や毒性発現機序を理解・応用でき、中毒に関わる社会的問題に積極的に関わる態度を示し、社会的に行動することができる。
- 2) 薬物依存をきたす主な薬物の種類、症状、治療について理解・応用でき、社会的問題として理解を深め、対処できる。
- 3) 産業衛生分野におけるリスクマネジメント手法を用い、産業中毒の予防措置を提案できる。
- 4) 救急医学的急性中毒をきたす主な薬物の種類、症状、治療について説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。講義は主として面接授業で行うが、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みて、オンライン授業に変更する場合もある。オンライン授業の場合は、Teams等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用

する。講義方法に変更がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率（2/3 以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

講義ごとに次回の参考文献を示す。

急性中毒標準診療ガイド（じほう）

中毒百科（南江堂）

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	法医中毒学の現状と今後 1-1	竹下 治男
2	法医中毒学の現状と今後 1-2	竹下 治男
3	産業衛生の現状と今後 1	山崎 雅之
4	法医中毒学の現状と今後 2	藤原 純子
5	法医中毒学の現状と今後 3	竹下 治男
6	法医中毒学の現状と今後 4	藤原 純子
7	急性中毒学の現状と今後 1	竹下 治男
8	法医中毒学の現状と今後 5	木村かおり
9	法医中毒学の現状と今後 6	竹下 治男
10	法医中毒学の現状と今後 7	木村かおり
11	産業衛生の現状と今後 2	山崎 雅之
12	産業衛生の現状と今後 3	山崎 雅之
13	救急医学急性中毒学の現状と今後 1	山田 法顕
14	救急医学急性中毒学の現状と今後 2	山田 法顕
15	法医中毒学の現状と今後 8	藤原 純子